



令和2年度(2020年度)学校教育目標

自ら学び、心豊かに、たくましく未来を切り拓く生徒の育成

校訓【自主・友愛・健康】

玉名市立天水中学校だより 第13号

前期総決算にふさわしい体験学習をありがとうございました。

本年度の体験学習【10月5日～7日、市内22ヶ所の事業所と27軒の農家の皆さんに】も大変お世話になりました。これには昨年度の「五者連携シンポジウム」の実績を踏まえ、「地域のニーズに応える総合的な学習の時間」というテーマがあります。

昨年度との大きな違いは生徒会活動の委員会ごとに活動している点です。この変更点は本年度の研究テーマ「ふるさと天水の良さに気付き、たくましく未来を切り拓く生徒の育成」がもとになっています。これまでもお知らせしてきていますように、本校は本年度から来年度にかけて玉名市教育委員会指定「特別活動研究推進校」です。特別活動の内容のひとつである生徒会活動の委員会活動として動くことで、異年齢の生徒同士で協力し合う場面を意図しているのです。

昨年度からの生徒さんたちの気付きのひとつとして、「環境」に関するものがありました。これは今後の社会で求められているSDGs【持続可能な開発目標】に通じるものです。

「ふるさと天水」を意識することは、そこで出会う「人・もの・こと」との関係から自らの未来、地域の未来づくりに対する参画意識を育てることにつながります。この点が特別活動指導上の3つの視点である「人間関係形成」「社会参画」、そして「自己実現」に照らし合わせた際、大きな価値があります。写真は左から温泉旅館、工務店、そしてロッジ・キャンプ場での様子です。



秋の美しさを満喫

写生大会【9月30日】に際して、生徒さんたちには写真と写生の共通点、相違点について考えたことを話しました。共通点はどちらもひとつの場面を切り取るという点です。相違点は写真が一瞬であることに対して、写生は時間をかけて、その時間の流れを含むこともできる点ではないかと考えます。写真はカメラという機器を使います。写生は基本的には手で(中には口に絵筆をくわえて詩画集を作成される星野富弘さんの例があります)描きます。ここに描く人の心のありようが表現されるのが写生の醍醐味ではないかと思えます。

そして、八木重吉さんという詩人の「素朴な琴」を紹介しました(本校図書室に詩集が2冊あります)。この詩のような写生ができることを期待しています。

素朴な琴

この明るさのなかへ

ひとつの素朴な琴をおけば

秋の美しさに耐えかね

琴はずかかに鳴りいだすだろう